

さいたま市立浦和博物館館報

## あかんさす

VOL. 47

通号 第 116 号

「あかんさす」とは、浦和博物館2階バルコニー柱頭の彫刻に見られる植物の葉で、当館を象徴するキーワードの一つとなっているものです。

## 特別展「五関村文書とその時代 ～幕領と旗本 領主2人の村～」展示史料 「諸職書上」について

さいたま市立浦和博物館では、平成30年10月20日(土)から12月2日(日)まで、「五関村文書とその時代～幕領と旗本 領主2人の村～」と題する特別展を開催しました。

五関村文書は、江戸時代から昭和戦前までの間に五関村(現・さいたま市桜区五関)で作成された、498点の主として村の自治に関わる文書です。長らく地域で保管し、受け継がれてきた「区有文

書」(地域所有の文書)という点に特徴があり、昭和47年(1972)から浦和博物館に寄託されていましたが、平成28年に寄贈を受けたものです。今回の特別展では、498点のうち江戸時代から明治初期までの古文書28点を公開しました。

今号では、「五関村文書」の舞台となった五関村の概要と、展示史料の中から「諸職書上」と題する古文書を取り上げて紹介します。

五関地区の位置



### 1. 五関地区の概要

現在の五関は、さいたま市南西部、荒川左岸の自然堤防上に位置する地区です。

江戸時代は「五関村」と称し、当初は村全域が幕府領でした。寛永10年(1633)に幕府領と旗本小笠原氏の知行地に分かれ、寛文年間(1661～73)頃に、旗本小笠原氏と津金氏の知行地となり、天和年間(1681～84)に津金氏知行地が再び幕府領となって幕末に至るといふ、17世紀末以降は幕府と旗本の領地が併存する「相給<sup>あいきゅう</sup>」の村となっていました。

その後、明治22年(1889)の町村制施行によって埼玉県北足立郡大久保村の大字となり、昭和30年(1955)に旧浦和市と合併、平成13年(2001)のさいたま市誕生を経て、同15年の



行政区設置により、桜区の大字として現在に至っています。なお、享保10年（1725）に新田開発された荒川堤外地の一部は、現在も大字五関の飛地となっています。

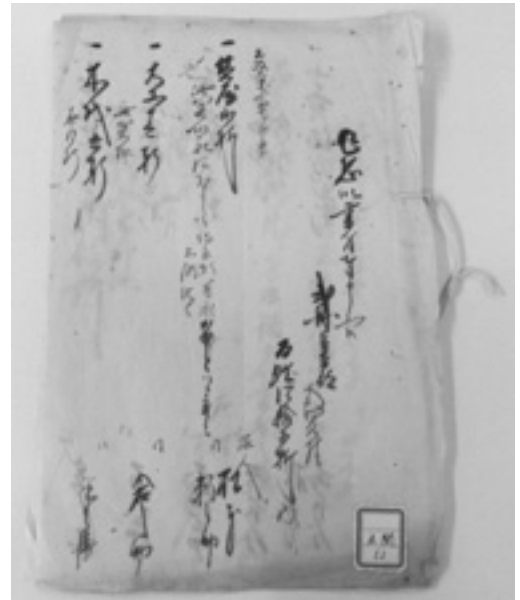
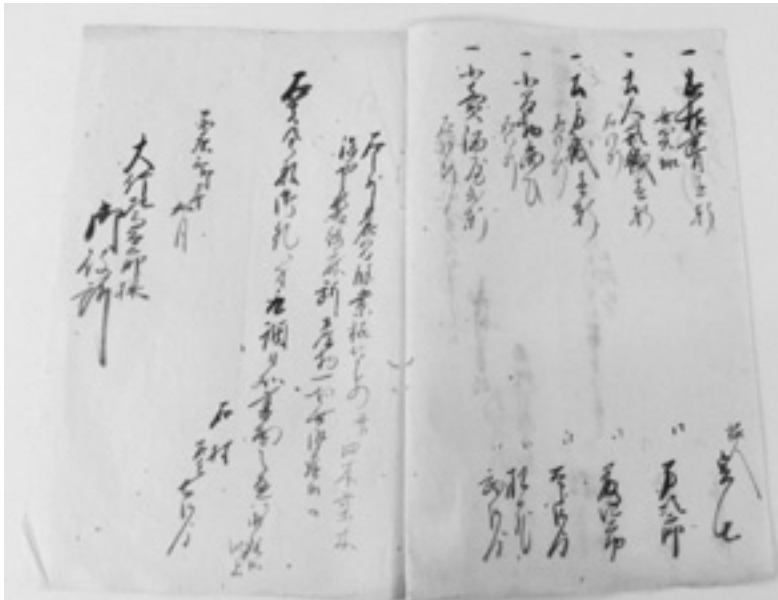
## 2. 史料紹介「諸職書上」について

「諸職書上」(『五関村文書総目録No52』、以下目録という)は、慶応3年(1867)9月(大政奉還

の1か月前)に、幕府が幕領村々の百姓について、農業の合間に従事している商工業の職種と、その従事者を把握するために実施した調査書です。

和紙を半分に折り、折り目の反対側をこよりで綴じて袋綴じにした「<sup>たてちよう</sup>縦帳」と呼ばれる、縦25.3cm及び横17.2cmの形態をしています(下は史料写真とその読み下し文)。

表1は、「諸職書上」及び慶応3年3月の「規定<sup>ぎじよう</sup>



<p>乍恐以書付奉申上候 武州足立郡五関村 百姓四拾五軒内</p>			
安政六未 <sup>(ヨリ)</sup> 式十ヶ年季			
一 質屋式軒	此冥加永四百文	但吉軒二付永式百文ツゝ年々	稼人
		上納仕候	松蔵
一 大工吉軒			同 頼之助
			同 倉之助
無冥加			
一 木伐吉軒			同 半兵衛
右同断			
一 家根茸吉軒			稼人 定七
無冥加			
一 土人形職吉軒			同 万次郎
右同断			
一 土方職吉軒			同 藤四郎
右同断			
一 小間物商心			同 太郎左衛門
右同断			
一 小賣酒屋式軒			同 松蔵
右同断			同 武左衛門
<p>右之外農間餘業稼仕候もの并四木葉木 湯や髪結床所産物一切無御座候 右者今般御糺二付取調候処書面之通り御座候 以上</p>			
<p>右村 名主 七左衛門</p>			
<p>慶応三卯年九月 大竹左馬太郎様 御役所</p>			

「諸職書上」読み下し文 ( )は読みがな



表1 「諸職書上」に見える農間余業従事百姓

稼人名前	階層	職種	冥加	備考
松蔵	組頭	質屋	永200文	安政6年(1859)から20ヶ年季
頼之助	組頭	質屋	永200文	安政6年(1859)から20ヶ年季
倉之助	百姓	大工	無し	
半兵衛	百姓	木伐	無し	
定七	百姓	家根葺	無し	
万次郎	(百姓)	土人形職	無し	
藤四郎	(不明)	土方職	無し	
太郎左衛門	百姓	小間物商い	無し	
松蔵	組頭	小売酒屋	無し	
武左衛門	百姓	小売酒屋	無し	

連印帳」(目録No17。以下「連印帳」とする)をもとに作成した、幕領分五関村45軒中の農間余業従事者の名前・階層・職種・冥加(幕府からその営業を認められる見返りに上納する金銭)の有無を一覧にしたものです。

質屋・小売酒屋各2軒、大工・木伐・家根葺・土人形職・土方職・小間物商い各1軒、計8業種に従事している百姓が9軒あり、農間余業就業率は20%(9軒/45軒)となっています。このうち、質屋を営む松蔵・頼之助の2軒のみ、安政6年(1859)から20年間の取り決めで、冥加としてそれぞれ年200文ずつ上納していたこと、これ以外の商売に冥加は課されていないことがわかります。また、9軒のうち松蔵のみ、質屋と小売酒屋の2業種を兼業しています。

この農間余業調査の半年前に作成された連印帳の署名から、農間余業従事者の階層を知ることができます。冥加を上納する質屋兼業の2軒はともに村役人層の組頭で、ある程度の資産を持つ百姓が営んでいたと推測されます。なお、土人形職を営む万次郎は、この年の連印帳に署名は見当たらないものの、他の史料によって組頭経験者であったことが確認できます。同じく、土方職を営む藤四郎については、連印帳に署名も無く他の史料にもその名が見当たらないため「(不明)」としましたが、連印帳には各戸主が署名しているので、その家族の一人とみなすことができます。

### 3. 五関の張り子創始者「蓮見萬次郎」について

明治時代から昭和40年代まで、「五関の張り子」と呼ばれる張り子作りを行っていた唯一の1軒が蓮見家です。天保7年(1836)五関の名主家に生まれ、旗本に仕えた「蓮見萬次郎」が大政奉還後五関村に戻って作り始めたとされています(註1)。

この蓮見萬次郎と「諸職書上」中に見える土人形職人の万次郎が同一人の可能性が高いことは、

既に館報第38号(註2)で指摘しているところですが、五関村文書での「万次郎」の初見は、表2のとおり元治2年3月の「議定帳」で、組頭としてその名が見られます。次いで慶応2年(1866)12月の「千貫樋利金割渡帳」、同3年12月の同名文書にあり、明治2年(1869)12月の同名文書以降はほぼ毎年その名が確認でき、同11年(1878)の一連の文書から「蓮見」姓を冠して見られるようになります。

一方、五関村文書の中で万次郎と同一印影の印章を使用する「義八」なる人物が、文政9年(1826)の史料を初見として、明治元年(1868)12月の史料まで確認できます。この義八は、天保12年(1841)1月から12月の1年間、五関村の名主を務めたことが確認でき、その後も万次郎とは同一史料に重複して登場しないこと、明治元年の史料以後その名が見えなくなる等から、先に紹介した言い伝えと考え合わせ、義八と万次郎は親子関係にあったのではないかと推測されます。

元治2年3月に万次郎の名が初めて見えて以降、明治2年12月までの間、義八と万次郎が交互に史料で確認される不自然な点についてその期間を整理すると、①元治2年4月～慶応2年11月・②同3年1月～同3年8月・③同4年1月～明治

表2 五関村文書における「義八」・「万次郎」対照表

年月	西暦	目録No	史料名	義八	万次郎	備考
文政9.12	1826	98	差上申済口証文之事(新士手築立出入)	○		
天保11.2	1840	35	田畑売買奥印帳	○		組頭
天保12.1	1841	35	田畑売買奥印帳	○		名主
天保13.12	1842	35	田畑売買奥印帳	○		組頭
天保14.3	1843	35	田畑売買奥印帳	○		組頭
嘉永5.2	1852	13	田畑売買奥印帳	○		組頭
嘉永6.12	1853	13	田畑売買奥印帳	○		
安政4.8	1857	28	議定連印帳	○		組頭
安政6.3	1859	42	議定連印帳	○		組頭
文久2.9	1862	16	御伝馬規定連印帳	○		五人組頭
元治2.3	1865	18	議定帳		○	組頭
慶応元.12	1865	502	千貫樋利金割渡帳	○		
慶応2.12	1866	502	千貫樋利金割渡帳		○	
慶応3.3	1867	17	規定連印帳	○		組頭
慶応3.9	1867	52	諸職書上		○	
慶応3.12	1867	501	千貫樋利金割渡帳		○	
明治元.12	1868	331	千貫樋積金利足割渡帳	○		
明治2.12	1869	309	千貫樋利金割渡帳		○	
明治3.12	1870	319	千貫樋利金割渡帳		○	
明治4.12	1871	332	千貫樋利金割渡帳		○	
明治6.12	1873	285	千貫樋備金利足割渡帳		○	
明治7.3	1874	295	諸普請人足札番号帳		○	
明治8.8	1875	324	鎮守拝殿勸化名簿		○	
明治9.1	1876	308	千貫樋積立金利足其外割渡帳		○	
明治9.1	1876	322	亥村費取立帳		○	
明治11.3	1878	311	村費并民課金区務所納取立帳	○		蓮見姓あり
明治11.6	1878	288	県立学校費割合帳	○		蓮見姓あり
明治11.6	1878	341	村費取立帳	○		蓮見姓あり
明治11.7	1878	334	学校改正入用取立帳	○		蓮見姓あり

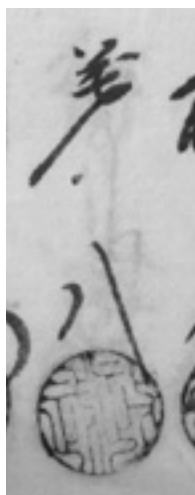


2年11月の史料上空白期間の万次郎の動向が焦点となります。「宗門人別改帳」等の史料がないため推測の域を出ませんが、このいずれかの間、義八の引退を受けて戸主となっていた万次郎が、旗本奉公（①または②の期間か）や張り子人形製作技術習得等のため、五関村から他所へ出ており、その間は再び義八が戸主を務めていた可能性があります。慶応3年9月時点では五関村で土人形作りをしていた万次郎が、新たに張り子作りを始める契機となった時期として、注目されます。

(学芸員 雨宮正人)

註1 坂本一也「五関の張り子」(『浦和』3 浦和一名店会 1965年)

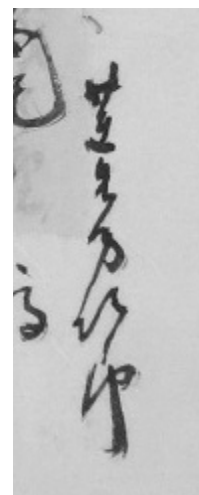
註2 『浦和博物館館報』第38号 1991年



「義八」印影  
(目録No.17)



「万次郎」印影  
(同No.18)



「蓮見万次郎」  
(同No.311)

## 日誌抄

H30/4/1(日)～5/6(日) 昔の道具さがし  
4/1(日)～8(日)・4/28(土)～5/6(日)  
昔のあそび  
6/9(土) 親子探鳥会  
6/15(金) 三室小学校(2年生)地域学習  
7/3(火) さとえ学園小学校(4年生)体験学習  
7/11(水)～13(金) 中学生職場体験(三室中)  
7/14(土)～8/26(日) 企画展「夏休み子ども博物館」、文化財さがし  
7/14(土)～29(日) 昔のあそび  
7/19(木)～29(日) 博物館学芸員実習  
7/21(土) 手づくりおもちゃ  
7/22(日) 昔のおもちゃづくり  
7/28(土)・29(日) 見沼通船堀のしくみ実験  
8/4(土) まが玉づくり  
8/4(土)～H31/1/16(水) 博物館学芸員インターン研修(大学院博士課程)  
10/20(土)～12/2(日) 特別展「五関村文書とその時代」  
10/20(土)・11/3(土・祝)・18(日) 特別展展示解説  
10/24(水) 大久保小学校(3年生)体験学習

11/1(木) 蕨市立北小学校(3年生)体験学習  
11/17(土) 特別展関連講座「古文書が語る五関村」  
11/18(日) 見沼通船堀のしくみ実験  
11/20(火) 三室小学校(4年生)見沼通船堀のしくみ実験体験学習  
12/15(土)～3/24(日) 企画展「ちょっと昔のくらしの道具展」  
H31/1/5(土)～14(月・祝) 昔のあそび  
1/14(月・祝) おもちゃづくり  
1/16(水) 三室小学校(3年生)体験学習  
1/16(水)・17(木) 中学生職場体験(木崎中)  
1/29(火) 中学生職場インタビュー(美園中)  
2/1(金)～3/31(日) 昔の道具さがし  
2/5(火) 川口市立戸塚東小学校(3年生)体験学習  
2/5(火)～7(木) 中学生職場体験(本太中)  
2/7(木)・8(金) 中学生職場体験(埼玉大学教育学部附属中)  
2/14(木) 浦和ルーテル学院小学校(3年生)体験学習  
2/20(水)～22(金) 中学生職場体験(浦和中)  
3/16(土)～31(日) 昔のあそび

さいたま市立浦和博物館館報 **あかんさす** No.116

編集・発行 さいたま市立浦和博物館

〒336-0911 さいたま市緑区三室2458番地 TEL・FAX 048-874-3960

発行日 平成31年3月20日

ホームページ <https://www.city.saitama.jp/004/005/004/005/002/index.html>

E-mail [urawa-museum@city.saitama.lg.jp](mailto:urawa-museum@city.saitama.lg.jp)



この館報は2,000部作成し、1部当たりの印刷経費は26円です。

